

天皇陛下御在位 三十年記念式典に招かれて

阿久比町長 竹内啓二

天皇陛下御在位三十年記念式典



▲ 記念式典招待状

2月24日に、天皇陛下御在位三十年記念式典が、東京の国立劇場で挙行され、私も全国町村会副会長の立場で内閣の招待を受けて参列してまいりました。衆参正副議長・国務大臣をはじめ、衆参議員や各国大使、最高裁判所長官、都道府県知事、全国市町村長の代表者、叙勲を受けられた方々や著名人など1,200人ほどが出席し、陛下の在位三十年をお祝いしました。私たちは都道府県会館に集合し、バスで国立劇場へ向かいました。

警備している警察官や劇場周辺の歩道で天皇陛下万歳と書かれたたすきを掛けている団体など多くの人々が両陛下を待つ光景が車窓から見えました。私たちは玄関先で降車し、案内係によって決められた席へ誘導されました。入り口で河野太郎外務大臣が出迎えてくれたので、恐縮し深々とお辞儀をして入

場しましたが、私たちの出迎えではなく各国の大使をお迎えになっていたことが分かり、勘違いに苦笑した次第です。

午後2時に内閣総理大臣の先導で両陛下がご臨席され、開式の辞を内閣官房長官が述べられました。国歌斉唱の後、安倍総理の式辞、衆参議長の祝辞と続き、国民代表の辞を福島県知事と川口元環境大臣が述べられた後、御製(天皇陛下が詠まれた和歌)と御歌(皇后陛下の詠まれた和歌)を波乃久里子さんが朗読されました。

御製 「我が国の 旅重ねきて思ふかな 年経る毎に 町はととのふ」

御歌 「ひと時の 幸分かつがに人びとの 佇むゆふべ 町に花降る」

平成15年に、御題「町」の歌会始で詠まれたものでした。平成15年は、本町にとって町制施行50周年の記念の年であり、私個人にとっても町長に就任して間もない時です。この式典で御題「町」がなぜ選定されたのかは分かりませんが「縁」を感じ、そして気付いてみれば私は何度も「町はととのふ、町はととのふ、町はととのふ・・・」と繰り返していました。この一言に「町の長の務め」はあったのかと気付かされました。平成の半ばから阿久比町政を担わせていただいた私としても、平成の世の最後に立ち合わせていただいていることに深い思いを感じています。

朗読が終わり、続いて三浦大知さんによる『歌声の響き』と鮫島有美子さんによる『おもひ子』の記念演奏に入りました。『歌声の響き』は沖縄県の国立ハンセン病療養所をご訪問された際、入所者との交流の思い出を詠んだ天皇陛下の琉歌に皇后陛下が曲を付けられた歌です。『おもひ子』は皇太子殿下がご幼少の頃に皇后陛下が口ずさんだ子守歌で、やはり皇后陛下の作曲だそうです。

この後、天皇陛下からのお言葉を一同起立の上拝聴いたしました。

8分間のお言葉一つ一つから、陛下として過ごされた30年の「想い」と「思い」が沸き上がるようでした。

お言葉の後、万歳を三唱し、内閣官房長官が閉式の辞を述べ、天皇、皇后両陛下がご退席になりました。

ゆっくりとした足取りで、記念演奏された方々一人一人に声を掛けられながら、穏やかな笑顔を絶やさず歩みを進められました。両陛下は最後にもう一度多くの参列者に向かって手を振られてから会場を後にされました。

宮中茶会に招かれて

記念式典の2日後の2月26日、宮中において天皇陛下御即位30年宮中茶会が開かれ、宮内庁より招待を受けて出席しました。宮内庁長官からの招待状は金の菊の御紋が入った立派なもので、5年前に園遊会にお招きを受けた招待状の記憶がよみがえりました。また、参入・退出の仕方や行事の進め方などの注意書きが、宮内庁式部職名で同封されていました。式部職なる職は私たち行政には無い職名ですので職務内容は推測することしかできませんが、宮内庁にとって大変重要な職務であると思います。

私も初めて宮中に何うとあって、当日は目覚めも早く気持ちが高ぶっていました。おかげで大都会東京での日の出をホテルの窓から拝み、朝日の清々しい光を全身に浴びて気持ちよく一日をスタートできました。

午前9時にホテルを出て皇居へと向かい皇居外苑に着くと、眼鏡橋(正式には正門石橋)へ向けて黒塗りの車が緩やかな大きなSの字カーブを描き、歩くよりも遅い速度で静々と列をなしています。眼鏡橋を渡り、皇居正門を乗車したまま